

令和5年度長久手市協働まちづくり活動補助金 補助事業ふりかえりシート

団体名 パラジウム

事業名 ふくしのイラストづくり事業

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① 長久手市福祉部、子ども部、放課後等デイサービスポカラポット、生活介護きらり、デイサービスるんるんを取材。福祉の支援体制と福祉サービスを受ける多様な人々を尋ねた。
- ② グラデーション画と缶バッジ制作のワークショップを、長久手市福祉まつり、楓まつり、名古屋学芸大学映像メディア学科ゼミ展にて3回実施。長久手市民を中心に、グラデーション画は合計144枚、缶バッジは300個以上を制作。多くの方々に参加いただいた。
- ③ ふくしのイラストとして、ラッピングや背景模様としてまとめた冊子50部、コミュニケーションツールとして表情を描いたカード50部、認知を広めるTシャツ14枚を制作。

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応、市と協働してよかったことなど）

- ① 福祉サービスが、利用する人々にしか認知されていない現状から、より多くの人々が知ることで、サービスを必要とする人々の理解にもつながり、多様性を認め合えるのではないかと感じた。福祉を限定されたものにせず、POPな福祉を目指す目的が明確となった。
- ② 絵の具を手で塗ってグラデーションを描くワークショップは、さまざまな制約を解き、いろいろな色が混ざることによって多様性を認め合う象徴的な行為であった。さらにそこで描いたグラデーション画を次回のワークショップで缶バッジにすることで、グラデーションにより人々がつながっていくことが実感できた。多くの参加者が喜んで制作していた。
- ③ グラデーション画は、ながくて福祉ガイドの表紙、第3回まざって長久手フェスタのチラシとリニモテラス公益施設での展示に採用された。市の発行物に採用されたことで、長久手市民へ向けてPOPな福祉に貢献できた。

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

3 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

POPな福祉を目指すため、地域の中に溶け込むことが重要であると実感した。人々の意識を変えるのではなく、人々の意識に浸透していく工夫を要すると気付いた。

4 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

POPな福祉を人々の意識へ浸透させていくための、プロモーションに取り組みたい。社会課題や地域課題に対しメディアがどのような役割を果たしていくかを研究し、長久手市から福祉を「Popular」な存在にしていくことを目標としたい。

5 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



長久手市、放課後等デイサービス、デイサービスの取材の様子。



長久手市福祉まつり、名古屋学芸大学映像メディア学科ゼミ展、長久手市楓まつりの様子。



ふくしのイラストを使用した、グラデーションパターン、カード、Tシャツ。

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。